

學小
安井乙熊編
生徒心得教授書

全

65
5
272

大 東 所 一 八		大 本 教 育 會 書 館	
三 冊	四 架	三 三 六 冊	第 三 室
架	號	架	號

K110.1
48.1

B I

240



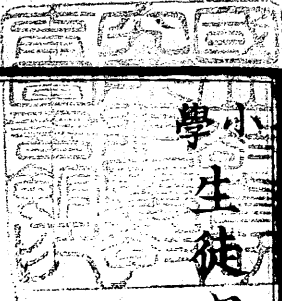
東 京 府 管 下

安井乙熊輯
青木輔清校

小學生心得教授書

版權所有

同盟舍出版



小學生心得教授書

西村恒方 稿
安井乙熊 輯

讀物 復讀 書取 算術 講述 習字

六級前期課程

伊呂波圖并濁音次清音圖ニテ假名ノ讀
方ヲ波ハ終テ小學生徒心得中ニ見セシム
伊呂波并ニ小體ノ假名ニテ書取ラシム
單ヨリ百正草ニテ數方ヲ教ヘテ取ラシム
一ヨリ百數マデノ數ヲ教ヘテ讀方并ニ一
トヨリ百數マデノ圖ヲ示シテ讀方并ニ一
ヨリ百數マデノ圖ヲ示シテ讀方并ニ一
修身談養生談取書方ヲ教ヘテ讀方并ニ一
小習字帖原就中ノ實物示教フ讀方ヲ教ヘ
後直ニ雙紙ニ就テ習ハシム

伊呂波圖

よ <small>代</small>	ち <small>ち</small>	い <small>以</small>
た <small>多</small>	り <small>里</small>	ろ <small>路</small>
れ <small>連</small>	ぬ <small>努</small>	ほ <small>火</small>
ろ <small>羅</small>	る <small>律</small>	に <small>乃</small>
つ <small>川</small>	を <small>茂</small>	ほ <small>不</small>
ね <small>年</small>	わ <small>五</small>	へ <small>魚</small>
な <small>那</small>	か <small>可</small>	と <small>土</small>

ゑ <small>惠</small>	あ <small>阿</small>	や <small>夜</small>	ら <small>良</small>
ひ <small>比</small>	さ <small>沙</small>	ま <small>馬</small>	む <small>母</small>
も <small>毛</small>	き <small>起</small>	け <small>奇</small>	う <small>宇</small>
せ <small>世</small>	ゆ <small>由</small>	ふ <small>婦</small>	ゐ <small>井</small>
す <small>蘇</small>	め <small>免</small>	こ <small>古</small>	の <small>比</small>
ん <small>ん</small>	み <small>三</small>	は <small>元</small>	に <small>お</small>
と <small>と</small>	し <small>志</small>	て <small>土</small>	く <small>屋</small>

名

ン	エ	ア	ヤ
ノ	ヒ <small>ピ</small>	サ <small>ザ</small>	マ
ル	モ	キ <small>ギ</small>	ケ <small>ゲ</small>
片	セ <small>ゼ</small>	ユ	フ <small>ブ</small>
一	ス <small>ズ</small>	メ	コ <small>ゴ</small>
		ミ	エ
		シ <small>ジ</small>	テ <small>デ</small>

假

片

ラ	ヨ	チ <small>ヂ</small>	イ
ム	タ <small>ダ</small>	リ	ロ
ウ	レ	ヌ	ハ <small>パ</small> <small>バ</small>
年	ソ <small>ゾ</small>	ル	ニ
ノ	ツ <small>ゾ</small>	ヲ	ホ <small>ポ</small> <small>ボ</small>
オ	ネ	ワ	ヘ <small>ペ</small> <small>ベ</small>
ク <small>グ</small>	ナ	カ <small>ガ</small>	ト <small>ド</small>

支二十干十

午 <small>むす</small>	子 <small>ね</small>	己 <small>つすの</small>	甲 <small>きのえ</small>
未 <small>ひつ</small>	丑 <small>ちう</small>	庚 <small>かのえ</small>	乙 <small>きのと</small>
申 <small>さる</small>	寅 <small>とら</small>	辛 <small>かのと</small>	丙 <small>ひのえ</small>
酉 <small>とり</small>	卯 <small>う</small>	壬 <small>みづのえ</small>	丁 <small>ひのと</small>
戌 <small>いぬ</small>	辰 <small>たつ</small>	癸 <small>みづのと</small>	戊 <small>つちのえ</small>
亥 <small>か</small>	巳 <small>み</small>		

8	0
9	1
10	2
	3
	4
	5
	6
	7

算用數字圖

八	〇
九	一
十	二
百	三
千	四
万	五
億	六
	七

數字圖



書取

小學○生徒

心得○一條

學文○爲

開○修

長○人

自營

小學生徒心得

第一條

學文を爲す

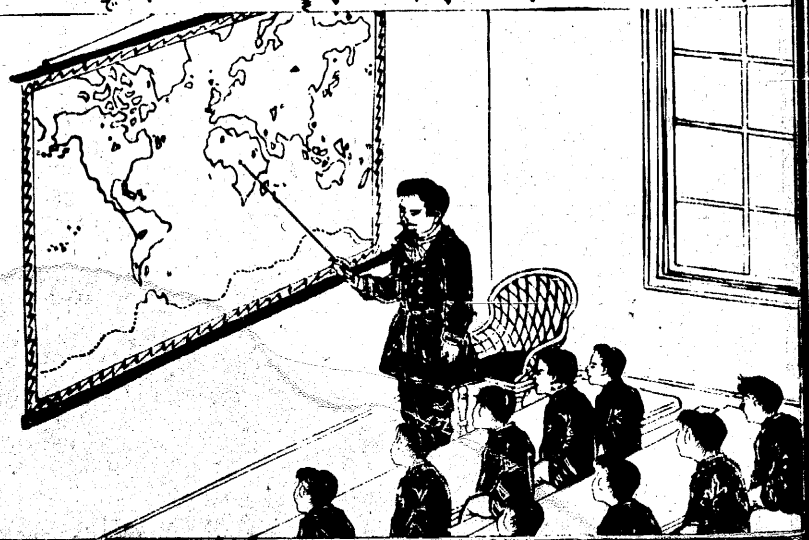
他におし智を開

き身を修め才

藝を長し人よ

頼らずして自

營の道を立つ



行ヨク ○ 學業ガク

將來シヤウライ ○ 幸福カフフ

肝要カンヤウ

常ツネ ○ 舉止キョウジ

言語ゲンゴ ○ 從シヤク

教キョウ ○ 苟且カウジン

粗暴ソボウ ○ 振舞フスマイ

朝笑アサウラエ ○ 様サマ

學術ガク ○ 恩人オンジン

我ワレ ○ 授サツ

意イ ○ 失ウシ

敬禮ケイレイ

衣服イフク

るよあてされは生徒たるもの
ハ第一身乃行を正しく常ツネに學ガク
業を勉勵ベンレツし將來シヤウライの幸福カフフを受ウる
様心懸サマココロくること肝要カンヤウなり

第二條

常ツネに舉止キョウジ言語ゲンゴを慎ツツミみ一意イチイに教キョウ
師シの指揮シキに從シヤクひて教を受ウくべ
し苟且カウジンにと粗暴ソボウの振舞フスマイをな

他生タセの朝笑アサウラエをうけさる様心サマココロか
くべし

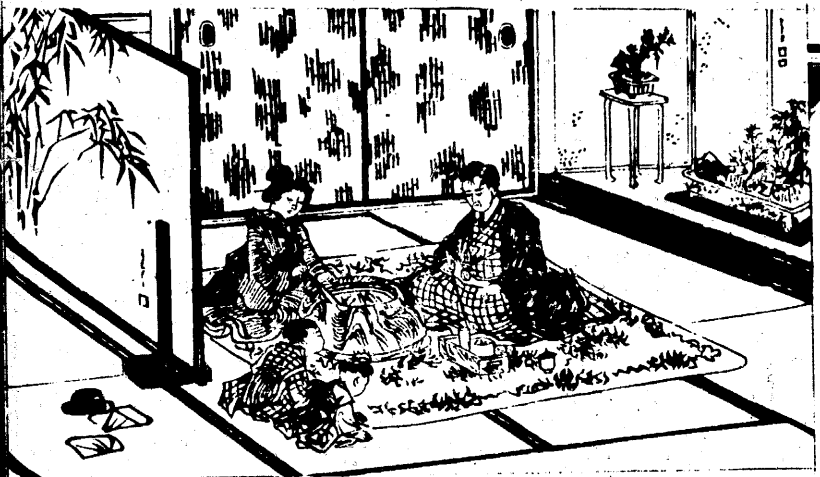
第三條

教師ケウシハ我ワレに學術ガクを授サツくる恩人オンジン
なり常ツネに敬禮ケイレイの意イを失ウシふべか
らむ

第四條

朝アサハかあらず早く起オキき先マツ衣服イフク

著替朝の早
 起洗
 顔手
 洗口
 嗽髪
 而
 後其
 伺尊長



を著替へ顔と
 手を洗ひ口を
 嗽だ髪を櫛り
 而して後尊長
 一禮をを
 て其安否を伺
 ふべし

第五條

毎朝食事
 終出用
 等取落
 様致
 用意

毎朝食事終れば學校へ出る用
 意ををて教場にて用ゐるべき
 書物石盤等を取り落さる様
 子致さべし

第六條

昇始前
 課業十分

學校へ昇るべき刻限も課業の
 始る刻限の十分前たるべし

扣所^{ひかへ}。行厨^{かみ}。
 至^{いた}。執^と。入^い。
 我^{わが}。置^{たま}。待^{まち}。
 決^{けつ}。為^な。
 坐席^{ざせき}。高聲^{かうせい}。
 遊戯^{ゆうぎ}。
 入^い。席^{せき}。就^つ。

第七條

學校^{がく}に至^{いた}れば先^まづ扣所^{ひかへ}に入^いり
 行厨^{かみ}を我^{わが}坐席^{ざせき}に置^{たま}き教師^{けいし}の差^さ
 圖^ずを待^{まち}ちて教場^{けうじやう}に入^いるべし決^{けつ}
 して高聲^{かうせい}遊戯^{ゆうぎ}など爲^なすべから
 ず

第八條

教場^{けうじやう}に入^いりて席^{せき}に就^つくときハ

行^{ぎやう}

若^{わが}。後^ご。其^{その}。
 由^{よし}。告^つ。受^う。
 出校^{しゅつがう}。

教師^{けいし}に敬禮^{けいらい}を行^なふべし

第九條

若^{わが}事故^{じこ}ありて出校^{しゅつがう}の刻限^{こくげん}に後^ご
 れたるは其^{その}由^{よし}を教師^{けいし}に告^つげ
 げて差圖^{さず}を受^うくべし

第十條

教^{けう}を受^うるときは勿論^{もちろん}總^{すべ}て我^{わが}意^い
 我慢^{まんまん}を出^いすべからず教場^{けうじやう}にて

己^{おのれ}。出^い。意^い。

教^{けう}。受^う。總^{すべ}。

迷^ミ 欲^カ 右^ミ
手^テ 揚^ホ 知^チ
言^{コト} 許^キ 可^カ

告^ツ 出^デ 入^ニ

障^シ 子^コ 襖^マ の 開^カ
開^カ 閉^ヘ の 静^シ
書^シ 物^{モノ} の 器^キ 械^ケ
叮^{テイ} 嚙^{セツ} の 取^ク 扱^{ソク}
破^ハ 損^ソ 食^シ
湯^ユ 茶^{チャ}

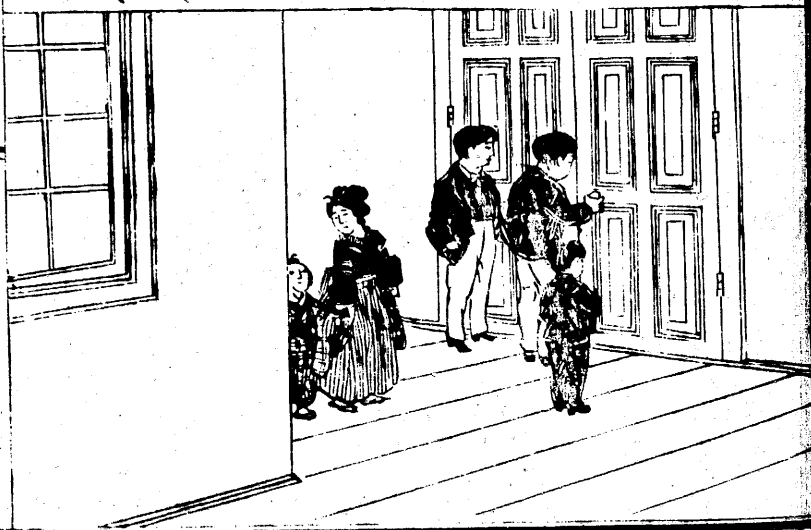
己^ミ の 意^イ を 迷^ミ ん と 欲^カ せ ば 右^ミ の 手^テ
を 揚^ホ げ て 其^{ソノ} 意^イ を 知^チ ら ぬ 教^{キョウ} 師^シ
の 許^キ 可^カ を 受^ウ け て 後^{オチ} ね ぐ や か 子^コ
言^{コト} す べ し

第十一條

教^{キョウ} 師^シ を 告^ツ げ ず し て み だ り に 教^{キョウ}
場^{キョウバ} の 出^デ 入^ニ を 志^シ せ ば 可^カ ら ず

第十二條

障^シ 子^コ 襖^マ の 開^カ
開^カ 閉^ヘ の 静^シ
書^シ 物^{モノ} の 器^キ 械^ケ
叮^{テイ} 嚙^{セツ} の 取^ク 扱^{ソク}
破^ハ 損^ソ 食^シ
さ る 様^{サマ} 又^{マタ} 行^{ユク}
廚^{チウ} の 静^シ に 食^シ
人^{ヒト} と 湯^ユ 茶^{チャ}



争あざむ或あるひ
衣服いふく○注意ちうい

於お石盤せきばん
○

書籍しよせき○納な

聞き○注意ちうい

塀へい○外見がいけん

雑談ざつだん

往返わうはん○途中ちゆうちゆう

於お戲あそび

行逢ゆきあひ○通とほり

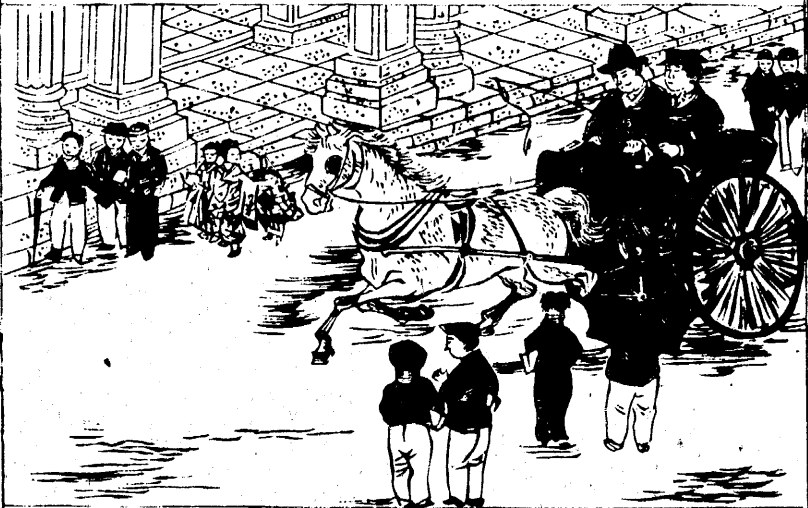
過あま○待まち

決き

を争あざむひ或あるひハ衣服いふくをど濡ぬさぬ様さま
注意ちういすべし

第十三條

教場きやうじやう子こ於おて書籍しよせき石盤せきばん等らを出だし
納なれするときハ響ひびの他たへ聞きえ
ざる様さまに注意ちういし又また壁塀かべへい其他たの
物ものへ監書かんしよし又またハ外見がいけん雑談ざつだんをふ
すべし



第十四條

學校がくがうへ往返わうはんを
る途中ちゆうちゆうに於お遊あそび
び戲あそびるべから
お若車馬等わかしやばらうらも
行逢ゆきあひふときハ
其通そのとほりり過あまるを
待まちち決きして其その

前まへのの馳せ過とぐとべべかららず

第十五條

自みづか宅ちへへ歸かへりりたたるるととききとと他た出いすす

他た出いすすのの由よし

但たゞしし必かならずず

日に課くわのの優ゆう劣りつ表ひょう

表ひょうのの示し

自みづか宅ちへへ歸かへりりたたるるととききとと他た出いすす

ととたたいい其その由よしをを尊そん長ちやうにに告つげげ敬けい

禮れいををななそそべべ

但たゞしし學がく校こうよより歸かへりりたたるるととたた

ハ必かならずず日に課くわ優ゆう劣りつ表ひょうをを尊そん長ちやうニニ示し

そそべべ

雨あめ天てんののととたたいい別べつしてして傘かさははききも

取と揃ろへへ置おきき

退たい校こうののととたた錯さく

第十六條

雨あめ天てんののととたたいい別べつしてして傘かさははききも

ののをを取と揃ろへへ置おきき退たい校こうののととたた錯さく

亂らんなきなき様やう注ちゆう意いすすべべ

第十七條

身み體たいのの健けん康かう

證せんのの條じょう件けん

守まもりり病びやうのの招まねぐぐ

學がく文ぶんををななををとともも身み體たい健けん康かうなならら

されさればば其その證せんななかかるるべべしし常つねよよ左ひだり

のの條じょう件けんをを守まもりりてて自みづからら病びやうをを招まねぐぐ

畢 ○ 體操場
ましまる たいさうばやう

運動
うんどう

べからず

第一課業
だいいくがふ

畢る毎
ましまる まい

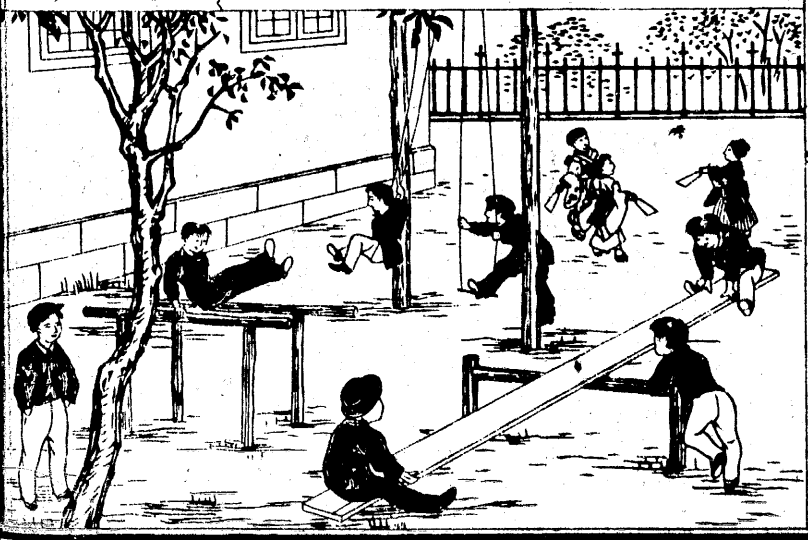
に體操
たいさう

に出
いだし

て運動
うんどう

をなす
なす

べからず



第二運動をなすとも奔走を
だいにうんどうをなすともほんそうを

ること過度を過ぐべからず
ことかたぎやうたふをたふぐべからず

第三熱き湯茶を強て飲むべ
だいにあつやうちあをたふてのむべ

べからず

第四字を寫し算を學ぶに體
だいにしをうつしさんをまなぶにたい

を曲げ胸を屈むべからず
をまげむねをかむべからず

第五雨天を傘ふくして歩行
だいにあめうてんをかさふくしてあひかう

すべからず

奔走
ほんそう

度
たふ

熱 ○ 湯茶
あつやうちあ

強 ○ 飲
たふ

字 ○ 寫 ○ 算
し づ

學 ○ 曲 ○ 胸
まなぶ まげ むね

屈
かむ

雨天 ○ 歩行
あめうてん あひかう

冠物かぶりもの ○ 炎天えんてん

冒まか ○ 跣足せんでん

雪中せつちゆう

急きゆう ○ 覺かく ○ 却かく

忘わす ○ 易やす

一事いちじ ○ 移うつ

心掛こころがかり

第六冠物だいろくのかぶりもの おくして炎天えんてん を冒まか

一跣足せんでん 小して雪中せつちゆう を行ゆく

べからむ

第十八條

急きゆう 小覺かく えんとむるとたへ却かくて

忘わすれ易やすきものなれば一事いちじ を覺かく

えて後のち一事いちじ 小移うつる様よう 小心掛こころがかりく

べ

第十九條

覺かくえ惡あくきとて決けつして倦うみ怠おこる

べからず怠おこらなまま勉強べんきやうするとた

ハ自然ぜんぜん 小覺かくゆるものあり

但其日たがひ 小教かくを受うけしことへ退たい

校がうの後のち尊長そんちやうの前まへ 小復讀ふくどくを

為なすべし

第二十條

復讀ふくどく

教かく ○ 授おづ

但たがひ ○ 日ひ

自然ぜんぜん

怠おこ

惡あく ○ 倦う

朋友 (トモ) 睦 (むつ) 睦交 (むつこう) 不敬 (ぶけい) 不遜 (ぶそん) 振舞 (ふるまひ) 誹謗 (ひぼう) 争 (あらまひ)



朋友 (トモ) と睦 (むつ) 睦交 (むつこう) 不敬 (ぶけい) 不遜 (ぶそん) の振舞 (ふるまひ) 誹謗 (ひぼう) を 又 (また) 人を (ひと) 誹謗 (ひぼう) を べからず 又 (また) 人を (ひと) 誹謗 (ひぼう) を べからず

第二十一条

人より争 (あらまひ) を仕 (あ) へ

仕懸 (しけん) 指示 (しじ)

懸 (か) るとも決 (けつ) りて之 (これ) と争 (あらまひ) ふべからず 其 (その) 由 (よし) を教師 (きょうし) に告 (つ) げて指示 (しじ) を受 (う) くるべし

第二十二條

尊敬 (そんけい) 出逢 (いであひ) 脱 (ぬ) 敬禮 (けいらい) 帽子 (ぼうし) 己 (おのれ)

尊敬 (そんけい) をすべき人 (ひと) 又 (また) ハ己 (おのれ) の人 (ひと) 出逢 (いであひ) としきハ帽子 (ぼうし) を脱 (ぬ) て敬禮 (けいらい) をなすべし

K110,1 - 48,1

明治十一年五月廿三日版權免許

編輯人

安井乙熊

定價六錢

東京第二大區八小區
芝西應寺町三番地寄留

出版人

青木輔清

同第一大區十三小區
濱町二丁目一番地

發賣

書肆

丸家善七

柳河梅次郎

江島喜兵衛

東生龜次郎

江島伊兵衛

石川治兵衛

内田弥兵衛